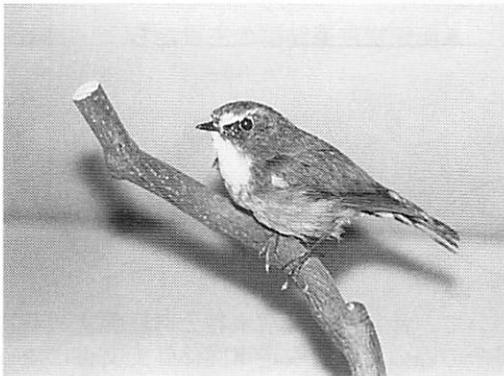


市立函館博物館館報サラニップ

SARANIP

No.37 1998.3.31

函館山を渡るルリビタキ

写真はいずれもルリビタキ雄成鳥ですが、左側が当館所蔵の剥製で、右側が函館山で鳥類標識調査中に捕獲した個体です。どちらもカラー写真でお見せできないのは残念です。

ところで、ルリという名の付く代表的な鳥は、他に、オオルリとコルリがいます。いずれも、瑠璃色（紫がかった紺色）を帯びた体色をしており、函館山で（いつでもというわけにはいきませんが）姿を見ることができます。しかし、この色になるのは雄だけで、雌はいずれも体色が褐色で地味な色をしています。このため、雌を識別するには少し慣れが必要です。

この3種の中でルリビタキが他の2種と決定的に違う点が2つあります。1つは、オオルリとコルリは春に東南アジアなどの日本より南方から繁殖のためにやってくる夏鳥であるのに対し、ルリビタキが春と秋の渡りの時期に、日本国内を北と南に行き来する途中に立ち寄るだけの旅鳥です。特に、秋の渡りの時期に観察される数がかつても多く、その時期は10月下旬から11月上旬です。

この期間のうち1、2度ルリビタキだらけになる日があるといえるほど大挙して函館山を通過して行きます。

もう1つは、オオルリとコルリの雄の体色は、生まれた年の翌春に成鳥とほぼ同じ羽色になりますが、ルリビタキは、翼の付け根にある小雨覆しょうあふらひに青色を帯びた羽を持つ以外は、すべて雌と同じような色をしています（これをここでは雌タイプと呼びます）。このため、雌なのにさえずるという誤解が生まれることとなります。小鳥類は普通生まれた年の翌年の春にはすでに繁殖能力を備えているので、ルリビタキの雄の場合、完全な成鳥羽（決定羽と呼ぶ）にならなくても、つまり雌タイプでもさえずるのは当然のことなのです。では、いつ成鳥羽になるかというと、たぶん、生まれた年の秋の体羽が第1回冬羽ふゆばですから、第3回冬羽以降になるのではないかと思います。このことからすると当館所蔵の剥製も捕獲した個体も第3回冬羽を経過し、年齢で言えば少なくとも2歳は経過していると思われます。

佐藤 理夫

平成9年度特別企画展 縄文人の青函交流 報告

特別企画展の今年のテーマは、考古部門の縄文時代に焦点をあてた「縄文人の青函交流—しょっぱい川の向こうがわ」で、6月1日から8月31日までの3か月の期間にわたって開催され、5,342名の来館者に観覧していただきました。

今回の趣旨は、縄文時代における津軽海峡、いわゆるしょっぱい川を挟んで青森圏と函館圏の間で繰り広げられた文化交流、交易の様相を三内丸山遺跡、小牧野遺跡、大石平遺跡、戸井貝塚、大船C遺跡、函館空港遺跡群等からの出土資料とその最新情報により展示紹介するものです。

展示は、「縄文時代というJIDAI」、「むらのくらし」、「グルメ・その食文化」、「縄文人の知恵袋」、「縄文人の精神世界」、「これが遺跡だ！」の6ステージの中で、しょっぱい川を挟んで北の厳しい自然環境に順応しながら、たくましくそしてたかたかに生き青函文化圏を形成した縄文人像を、多くの観覧者に身近に再見していただく内容で紹介しました。特に今回の企画では、遺跡から出土したヒスイ、黒曜石、アスファルト等の産地同定や土器、石器、骨角器等々の生活用具、生活技術

の類似性など近年めざましく北海道と本州における縄文時代の交易形態や人の往来等に関わる具体的事例が相次いで発見される中、これらの最新出土資料を加え新たな縄文時代観を広く紹介できたことは大きな成果の一つといえます。

長谷部 一弘



▲函館空港遺跡群の主役たち

平成9年度特別展 函館の明治維新 報告

平成9年度の特別展は五稜郭分館を会場に「函館の明治維新」と題し、箱館戦争や開拓使の設置に関することから含めて、東京から北で最大の都市となっていく函館の姿を、特に明治初期という時期区分を設定して紹介しました。7月29日から9月21日の期間に27,816人の方々に観覧していただきました。

展示は5つのテーマで構成しました。「箱館から函館へ」では箱館奉行所から箱館裁判所へ体制が移行する際

の状況について、裁判所総督清水谷公考に関する資料および箱館戦争の際の旧幕府脱走軍関係外交文書によって紹介しました。「開拓使の設置」では、開拓使の諸政策から北海道の産業に大きな影響をもたらした地質調査と、開拓に大きな影響を与えた亙理伊達家と尾張徳川家の士族移住について紹介しました。「近代都市に向けて」では、都市基盤整備が進む函館のまちの様子を写真と地図によって紹介し、あわせて函館のまちの発展には大火がともなうことも紹介しました。「明治初期の函館のまち」では、諸産業を背景に成長し函館の都市基盤整備にも大きな影響を与えた商人と、冬の基幹産業でもあった五稜郭の堀での採氷、さらに明治初期の初等教育について紹介しました。「開拓使と函館博物館」では、官民協力のもとに造成された函館公園と、日本で最も古い博物館の一つでもある市立函館博物館の前身である函館仮博物館について紹介しました。

漠然としたタイトルで、これぞ函館の明治維新という視点は明確ではありませんが、これら様々な事柄が明治初期の函館・北海道で行われ、その後の、そして現在の函館・北海道に何かしらの影響を与えられていることを感じ取っていただけたのではないのでしょうか。

保科 智治



▲開拓初期の農機具に見入る観覧者

平成9年度企画展

新収蔵資料展

報告

博物館では、毎年収蔵資料が増加していきませんが、昨年度は、市民の方々からの寄贈、購入等により、各分野合計412件1,098点もの資料が新しく博物館資料の仲間入りを果たしました。函館の明治期を写した写真、絵はがき類、アイヌ風俗絵馬等、どの資料も貴重なものばかりです。

今年度も、これら資料を一堂に展示してお披露目する、恒例の企画展「新収蔵資料展」を、本館を会場に9月21日から10月19日まで開催いたしました。

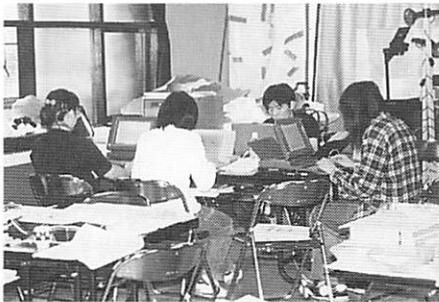
この企画展を開催する時期は、ちょうど博物館学芸員の資格取得を目指す学生さんたちが、実習のために来館している時期でもあります。このため、当館ではより実践的な実習ができる絶好の機会として捉え、学生さんた

ちに企画展「新収蔵資料展」の展示を全面的に任せていきます。このような実習は、当館の大きな特徴と言え、全国の博物館でも珍しいのではないのでしょうか。

昨年同様、北海道教育大学函館校の学生を中心に、20名が約3週間の実習期間中、展覧会開催に向け、企画、キャプション制作等、全力を傾けて準備作業に取り組んでいました。多くの学生にとって、初めての体験ですので、戸惑い、苦労を重ねながらも着実に展示を作り上げていき、展示室に子供たちが遊べるコーナーを設ける等、今回はなかなかの出来映えとなりました。

1年に一度、分野を越えた資料を展示公開する「新収蔵資料展」は、色々な意味で博物館を知る良い機会です。来年度も開催予定ですので、ぜひともご覧ください。

尾崎 渉



▲新収蔵資料展のキャプション制作に取り組む実習生たち



▲平成9年度実習生・全員集合！
◀自在鉤をつるして茶の間を再現？

博物館実習を終えて

実習生 奥野 進
(北海道教育大学函館校4年)

9月2日から21日まで、素人同然の私たちは、実習生として暖かく迎えられ、新収蔵資料展の企画から展示までを担当することになった。展示といえば、博物館活動の顔だ。もちろん学芸員の方々のサポートはあるものの、あまりに大胆な任せ方は私たちが逆に戸惑うほどだった。

思った通り、はじめは状況が把握できず、なかなか作業がすすまない。今まで展示という完成された形でしか博物館に接したことのない私たちにとって、学芸業務は想像以上に幅広く、1つを理解すると、1つ新たに現われるといった具合だった。

しかし、こうした作業を繰り返し悪戦苦闘するなかで、何も分からずバラバラだった私たちのなかに自信や信頼関係が生まれ、徐々にではあるが丸となって目標に向かうことができるようになっていった。こうして、なんとか完成した展示は、専門家である学芸員の方々から見ればまだまだかもしれないが、私たちの持てる力を全て出し切れたのではないかなと思う。

実習を終えた直後は安心感と去りがたい気持ちでいっぱいだった私だが、少し経った今は、もう少し冷静に自分の未熟さや大きな舞台を与えてくださった博物館職員の方々の大きさをひしひしと感じている。

あくまでも、この実習の中心は学芸業務の把握だが、知ることの楽しさやものを作り上げる喜び、そこに集う人のすばらしさなど、ものを介した人と人との交流の醍醐味を味わえたことをうれしく思う。4年の私にとっては、大学生活の1つの成果として、また新社会人へのステップとして稔りの多い3週間となった。

平成9年度博物館講座報告

土器の拓本をとろう

VS.

植物画を描こう

今年度から博物館講座の考古部門に新たに「土器の拓本をとろう」が加わり、6月28日(土)、博物館本館に18名の市内小学生を集め開催されました。

土器の拓本づくりは、子供たちにとって日頃馴染みの薄い初めての体験学習でしたが、十円玉に紙を当てて鉛筆でこすると文様が浮き出る仕組みを頭に入れ、用意された縄文式土器のかけらを手にしながら画仙紙を器面に当て上から墨を打っていく作業に挑戦しました。文様を浮き立たせるために水に浸した布で画仙紙を器面に密着させる作業では、出来映えを互いに気にしながら悪戦苦闘の末どうにか乾燥までこぎつけ、墨の打つタイミングをじっと待つ子供たちのまなざしは真剣そのもので、墨を打ち始める子供たちの手元から、縄目の文様が次第に浮き上がってくると「やった!」の声があがるほどの盛況ぶりでした。今回の土器の文様を紙に写し取るという初めての体験の中で、完成した拓本から子供たちがこれまで展示や土器作り等では得られない新鮮な縄文時代のイメージをしっかりと鮮明に心に写し取っていたことを読みとれたのは、何よりの収穫といえます。

長谷部 一弘

平成9年度博物館講座開催表 単講座

No.	講座名	開催期日	参加数
1	春の星座観測	5月17日(土)	26
2	函館山自然観察 「初夏」	6月8日(日)	11
3	展示解説セミナー 縄文人の青函交流	6月14日(土)	48
4	SPレコードを聴こう①	6月22日(土)	31
5	体験学習 土器の拓本をとろう	6月28日(土)	18
6	夏の星座と七夕	7月5日(土)	30
7	体験学習 土器を作ってみよう(2回連続講座)	7月26日(日) 8月9日(日)	37
8	夏休み自由研究 色を作って絵を描こう	7月27日(日)	14
9	夏休み自由研究 鉄道の仕組みとJR見学会	7月29日(火)	45
10	親子自然体験教室 (宿泊キャンプ1泊2日)	7月30日(水)~7月31日(木)	16
11	展示解説セミナー 函館の明治維新	8月3日(日)	6
12	博物館資料に触れてみよう①	8月7日(木)	4
13	博物館資料に触れてみよう②	8月14日(木)	6
14	松前・歴史と美術の旅(バスツアー)	8月24日(日)	43
15	植物画を描こう(3回連続講座)	9月13日(土)、14・28日(日)	13
16	宿泊体験学習 おもしろ博物館(1泊2日)	9月26日(金)~27日(土)	23
17	【生涯学習フェス協賛】SPレコードを聴こう②	10月18日(土)	10
18	【生涯学習フェス協賛】函館山自然観察 「秋」	10月19日(日)	25
19	秋の星座と中秋の名月	10月25日(土)	15
20	冬の星座観測	12月13日(土)	14
21	ひな人形をつくろう	2月22日(日)	16

ワークショップ(通年講座)

No.	講座名	開催期日	参加数
1	函館の星空を探ろう	9月4日12日(土)~10月3日21日(日)	42
2	函館の自然を探ろう	9月4日13日(日)~10月3日22日(日)	35

今回の講座は、昨年度行われた特別企画展「函館の自然詩」のなかで実施されたアンケートで、植物画の講座の開催希望があったことを受けて実施されたもので、9月13日(土)、14日(日)、28日(日)の3回連続で青少年研修センター「ふるる函館」を会場に13名の受講生の参加を得て開催しました。講師については、展覧会で実際に植物画を出品いただいた川嶋昭二さんをお願いしました。

参加者のほとんどが初めての方で、当初は植物画を描くのが不安に思い「私でも描けるのでしょうか。」という気持ちが正直なところだったのではないのでしょうか。しかし、いざ蓋を開けてみると、参加者それぞれが真剣に植物画に取り組み、素人とは思えないすばらしい作品を完成させました。これに気を良くしてか、来年の講座開催を強く望む声のできたほどです。

講座開催期間中に完成した作品については、短い期間でしたが、当館の階段壁面に飾り、観覧者に鑑賞いただきました。講座参加者の上達ぶりに観覧者は一様に驚いていたようです。

佐藤 理夫



◀植物画の描き方を説明する川嶋先生と聞き入る参加者の方々

松前・歴史と美術の旅バスツアー

今年のバスツアーは、8月24日(日)、43名の参加者とともに、北海道でも歴史の古い松前町を訪れました。歴史と美術の旅と題して、歴史では幕末から明治維新の頃を、美術では古建築と松前藩の画人・蠣崎波響を中心に紹介しながら、阿吽寺、松前藩屋敷、松前城資料館、郷土資料館をめぐるしました。

なかでも阿吽寺では、土蔵形式の奥殿に入り、北海道指定有形文化財の本尊不動明王立像や、松前藩初代藩主慶廣の木像などの宝物を間近に見学し、住職に解説していただくという貴重な体験ができました。

また、福山城(松前城)では、周囲を探索し、かつて砲台のあった場所など当時の城郭に思いを馳せました。復元された天守・松前城資料館では、松前藩資料や蠣崎波響の絵画を見学しました。

帰途に記してもらった感想文から、バスツアーの開催回数や参加定員を増やしてほしいという意見があり、参加者の方々が大変満足しているのが感じ取られました。

霜村 紀子

平成9年度博物館講座報告

「博物館講座トピックス」

平成9年度の博物館講座は、別表のとおり20講座を開催、多くの市民の方々に参加いただきました。この中から初めて企画した「おもしろ博物館」と、表には記載しなかった臨時開催の特別講座「ヘール・ポップ彗星観測会」についてご紹介します。

「おもしろ博物館」は、博物館をより身近に知ってもらう目的で、小・中学生の親子を対象に、1泊2日の日程で青少年研修センターを会場に開催しました。博物館の収蔵庫見学、磯採集、その採集品による立体絵画制作をはじめ天体観測と盛沢山の内容でしたが、参加者の交流が生まれたり、親子の絆が深まるなど参加者からも好評の内容でした。



◀ 蓄音機に興味津々にのぞきこむおもしろ博物館の参加者



▲ヘール・ポップ彗星(1997.3.23 函館市穴淵にて撮影)

「ヘール・ポップ彗星観測会」は、今世紀最後の大彗星接近であったため、特別講座として4月8日に臨時に開催、当初は30名の定員でしたが応募が殺到したため定員枠を外して実施したところ、110名もの参加者が集まりました。五稜郭公園を会場に、博物館職員総動員で対応、天体望遠鏡、双眼鏡をフルに使っても長蛇の列ができてしまうほど近年にない盛況の講座となりました。この観測会参加で天体に興味を持つ方々が増え、裾野が広がったことは非常にうれしいことでした。

尾崎 涉

新館に向けて はじめの一步



平成8年7月、函館市教育委員会は「函館市社会教育施設整備基本計画」を策定し、平成8年度から23年度までの16年間に文化・スポーツ施設等の整備を実施することになりました。整備時期の区分として、平成8年度から15年度までを前期とし、平成16年度から23年度までを後期とし、総合博物館の構想は後期に位置づけられました。

現在の博物館は本館・分館・郷土資料館の3館体制となっていますが、博物館資料は北方民族資料館・北洋資料館等の財団施設にも展示されています。これらの状況から、「基本計画」では総合博物館のもとに箱館奉行所(復元予定、完成後分館は廃止)・北方民族資料館・北洋資料館・郷土資料館・埋蔵文化財センター・旧函館区公会堂・旧函館博物館第1・2号棟・青少年科学館を関連施設として位置づけています。

博物館ではこの計画を基に他館の状況調査を実施することにし、平成8年度は葛飾区郷土と天文の博物館・入間市博物館・清瀬市博物館・墨田区生涯学習センターに伺いました。葛飾・入間の両館は開館数年以内の新しい館で設備の整った館です。清瀬市博物館は開館後約10年を経た館で現在は生涯学習の場として公民館的機能が重視されている館です。墨田は博物館ではないのですが、現在の博物館施設に要求される生涯学習機能を調査する

ために、ボランティアによる運営を行っている施設として調査しました。

博物館について共通する問題点は、収蔵庫の問題でした。増えることはあっても減ることのない資料をいかに収蔵していくかは各館とも悩みの種ようです。また、常設展示に関してはその構造を固定的にしてしまった場合、10年20年経過したときにどのように変えられるかが問題となってくると思います。その他問題は多々ありますが今後の調査と数多くのご意見を参考にしながら、新しい博物館に向けて一歩一歩進んでいきたいと思ひます。



▲葛飾区郷土と天文の博物館の収蔵庫を見学する様子

保科 智治

昆虫資料蔵品目録発行

新たに一括寄贈された昆虫標本資料約2,000点を収録した博物館所蔵資料目録「昆虫篇・松本泰和コレクション」が平成9年度出版事業として今回発行されます。

「松本コレクション」は、元小樽検疫所函館支所長を務めた松本泰和氏が自身の採集等により収集した昆虫コレクションで、その採集地域は全国広範囲におよび、主要な国内産チョウ類を網羅、その他外国産のレテノールフォ・トリバナエゲハ等の珍チョウ、甲虫類等も含ま

れています。採集場所、採集年月日等の記録も正確で、昆虫を研究する上でも実に貴重な標本と言えるでしょう。この貴重な標本が、松本氏が函館に在住していた関係から、当館へ一括寄贈されることとなったわけです。

松本氏と親しい昆虫研究者の方々にボランティアとして全面的にご協力いただき完成したこの目録は、関係機関をはじめ、昆虫研究者の良き資料となるでしょう。

尾崎 渉

平成9年度新収蔵資料紹介

○寄贈資料

- ・クロジ(♂) 他 3件3点
【渡島支庁長・丸山 達男氏寄贈】
- ・扇面散屏風 2件2点【函館市・佐山 寿美子氏寄贈】
- ・五月人形 1件1点 【函館市・宮石 建氏寄贈】
- ・御神酒徳利(箱館焼) 1件2点
【函館市・渡邊 道子氏寄贈】
- ・函館市街全景写真 1件1点
【函館市・瀬川 潔氏寄贈】
- ・写真パネル(昭和23年函館市街航空写真、昭和51年函館市街航空写真、平成9年函館市街航空写真) 1件3点
【建設省国土地理院北海道測量部寄贈】
- ・森の樹(油彩画) 他 37件37点
【札幌市・鎌田 俳捺子氏寄贈】
- ・函館市地理讀本資料 他 1件1点
【函館市・佐藤 和久氏寄贈】
- ・ジャージ(札幌オリンピックのもの) 他 2件2点
【函館市・佐藤 弘子氏寄贈】
- ・雪下駄 1件1点 【函館市・小澤 トミコ氏寄贈】
- ・明治大正昭和の大繪巻 1件1点
【函館市・伊藤 郁男氏寄贈】
- ・白樺製容器 1件1点 【函館市・牧田 隆夫氏寄贈】
- ・湯飲み茶碗(箱館焼) 1件1点
【栃木県・大塚 建一郎氏寄贈】
- ・柳行李 1件1点 【函館市・福本 あい氏寄贈】
- ・扇風機 他 4件4点 【函館市・中野 潤氏寄贈】
- ・日魯徽章 他 10件12点
【函館市・大久保 君江氏寄贈】
- ・丸テーブル 他 2件2点
【函館市・今野 義明氏寄贈】
- ・電気釜 1件1点 【函館市・興村 孝子氏寄贈】
- ・マイクロテープレコーダー 1件1点
【函館市・川嶋 昭二氏寄贈】

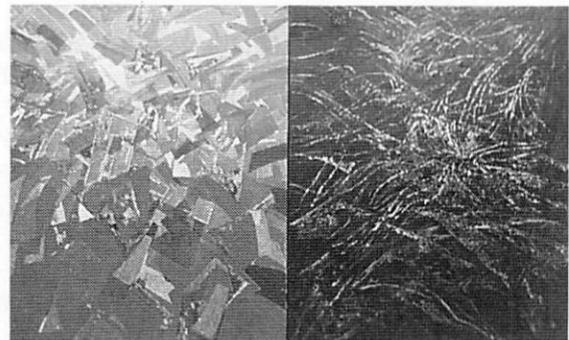
- ・地券(明治13年開拓使発行) 1件2点

○購入資料

- ・アイヌ母子の図(平福徳庵画) 1件1点
- ・メンコ(裕次郎メンコ、映画メンコ、プロ野球メンコ) 1件342点
- ・ウインターキャラメル箱 1件1点
- ・カーピング(ヤマガラ) 1件1点
- ・千島国海獺採之図 1件1点

○寄贈図書

- ・建網の手引き 他 2件2点
【函館市・打田 正明氏寄贈】
- ・回天艦長甲賀源吾傳 附函館戦記 1件1点
【東京都・今井 晴彦氏寄贈】
(平成10年2月1日現在)



▲昼と夜と(油彩画) 鎌田俳捺子

職員の異動紹介

- 寺島 祥行 財務部納税課整理部門→五稜郭分館
- 遠藤 笑佳 郷土資料館臨時職員採用

—誌名SARANIP(サラニップ)について—

アイヌ語：シナの樹皮で編んだ袋。
博物館情報や研究成果などをSARANIPに入れておき、その蓄積が今後重要な資料となっていくようにと命名したものです。



SARANIP —サラニップ— No.37 1998.3.31発行

編集・発行 市立函館博物館

〒040-0044

函館市青柳町17-1(函館公園内)

TEL 0138-23-5480 FAX 0138-23-0831